

# 模擬投票で選挙を体感

投票する政党をどう選ぶか。生徒が選挙を体感できるよう、2013年の前回参院選を題材にした模擬投票が1日、東広島市の黒瀬高であった。生徒は実際の選挙公報を読み込み、各政党の主張を整理。関心のある政策などを基準に政党を選んで投票に臨んだ。

(新谷枝里子)



模擬投票の前、体育館に張られた参院選の選挙公報に見入る生徒

## 18歳からの1票

参院選比例代表の選挙公報が2、3年生の各教室に張り出されたのは投票日の1週間前。現在はなくなつた政党もあるが、全ページを順番に掲示した。公報は東広島市選管から提供を受けた。

掲載された全12党派の主張を整理するワークシートが配られ、生徒は各政党の公約を読んで感じたことを書き込んだ。担任教諭から「自分の生活と関わる政策を探してみよう」「公約は実現できそうかを考えよう」などとアドバイスを受け、投票する政党をそれぞれ選んだ。

**模擬投票までの流れ**

**3週間前**  
選挙の仕組みや意義について解説した新聞記事を教室に掲示

**2週間前**  
同世代の若者が「18歳選挙権」について書いた意見文を配布

**1週間前**  
投票に使う2013年参院選の選挙公報を教室に掲示。ワークシートを配る

**当日**  
東広島市選管などによる解説と模擬投票

## 東広島市の黒瀬高 公報で政党の公約点検

ワークシートに各党のキヤッチコピーや公約を書き写すだけでなく、政策への疑問や意見を書き込んだ生徒も多くいたという。3年有田慧さん(18)は「選挙公報を読んだのは初めて。いろんな党があつて、考えにも違いがある」とあらためて分かったという。

模擬投票は体育館であり、市選管から借りた実物の記載台や投票箱で実施。夏の参院選で投票対象となる2、3年生の計約180人が1票を投じた。会場に張られた選挙公報に投票直前まで見入る生徒もいた。投票を終えた3年山本つばみさん(18)は「政治家は高齢者ばかりに気を配っているように見える。春から社会人になるので、資金アップなど若者の生活を良くしようと訴える政党を応援したい」と話した。

2年生の1クラスが事前に生徒アンケートをしたところ、選挙権年齢の引き下げについて「政治について考えるよい機会」と賛成する意見が多かった。一方で、「政治はよく分からないから投票するのが不安」「面倒くさい」などの声もあつたという。

模擬投票が終わった後、2、3年生全員を対象にしたアンケートでは、8割が「投票に行く」と答え、「ちゃんと考えれば自分にもできる」「それほど難しいことはない」と分かった。など前向きに捉えた感想が目立ったという。

市選管と協議し、準備を進めてきた地歴公民科主任の浅藤直幸教諭(48)は「ただ手順を確認するだけの模擬投票では、いざ選挙本番を迎えた時、候補者や政党の選び方が分からないかもしれない。自分の考えで投票できるよう、できる限りの実践的な取り組みにした」と説明する。

実在する政党を取り上げることには当初「中立性について問題視される恐れがないか」と不安の声も上がったという。教員が私見を述べるのは避け、各政党を平等に取り扱った選挙公報を資料に用いた。同校は模擬投票の3週間前からホームルームで主権者教育に取り組んだ。生徒は「18歳選挙権」を特集した新聞を読むなどして、1票の重みに理解を深めた。

「本番の選挙では個人演説会を聞きに行ったり、政見放送を見たり、いろんな情報を聞きながら判断してほしい」。浅藤教諭は、模擬投票で1票を投じた生徒にこう呼び掛け、一連の授業を締めくくった。